

文化施策の評価方法の検討

1 背景

●文化芸術の振興に関する基本的な方針（平成 19 年 2 月 9 日閣議決定：第 2 次基本方針）

《政策形成への民意の反映等》

・文化芸術施策の評価方法について、文化芸術の各分野の特性を十分に踏まえ、定量的な評価のみならず、定性的な評価を含む適切な評価方法の開発に関する検討を行う。

●文化芸術の振興に関する基本的な方針（平成 23 年 2 月 8 日閣議決定：第 3 次基本方針）

《計画、実行、検証、改善（PDCA）サイクルの確立等》

・文化芸術振興施策の着実かつ継続的な実施を図るとともに、国民への説明責任の向上に資するため、重点戦略に係る計画、実行、検証、改善（PDCA）サイクルを確立し、各施策の進捗状況を点検するとともにに不断の改善を図る必要がある。このため、文化審議会において、重点戦略に基づく施策の進捗状況を年度ごとに点検することとし、併せて有効な評価手法の確立に努める。

その際、文化芸術各分野及び各施策の特性を十分に踏まえ、定量的な評価のみならず定性的な評価も活用し、質的側面を含む適切な評価を行うとともに、年度によって選択的に軽重を付した評価を行うことも検討する。また、施策の評価のみならず企画立案等にも必要な基礎的データの測定・収集、及び中長期的な影響・効果の測定手法など各種調査研究の充実を図る。

●文化芸術の振興に関する基本的な方針（平成 27 年 5 月 22 日閣議決定：第 4 次基本方針）

《政策評価の必要性》

・文化芸術各分野及び各施策の特性を十分に踏まえ、定量的な評価のみならず定性的な評価も活用し、質的側面を含む適切な評価を行うとともに、年度によって選択的に軽重を付した評価を行うことも検討する。



上記の背景を踏まえ、平成 28 年 3 月に策定した「第 2 次千葉県文化芸術振興計画」において、「計画の評価と進行管理」について、以下の内容を定めた。

●文化芸術の特性上、定量的な側面のみでは成果を測りにくい部分があるため、創造性、表現性、コミュニケーション性などの定性的な観点も取り入れた、より効果的かつ長期的な評価方法を検討していく。

2 今後検討すべき評価方法について

現状

毎年度、各事業の予算額、目標に対する実績（実施回数や観客数等）をとりまとめ、文化芸術振興会議に報告するとともに、ホームページで公表。アウトプットにとどまり、アウトカムまで検証していない。

課題

各施策や事業の特性を十分に踏まえ、定量的な評価（回数・人数等）のみならず定性的な観点も取り入れた評価も活用し、質的側面を含む適切な評価を行う

論点

定性的な観点も取り入れた文化施策の評価には、どのような評価基準や評価手法が必要か

●個別事業への評価基準（指標・目標）の設定

事業の種類等に応じ、どのような指標が適切か？

【参考】

事業の種類別の例：公演の実施、イベントの実施、ワークショップの実施 等
 定量的指標の例・・・実施回数、参加人数
 定性的指標の例・・・芸術性や参加者の満足度
 関係者の意識の向上度

●評価手法の構築

評価に客観性や専門性を反映させ、評価を踏まえた事業を展開するには？

【検討例】

一次評価：事業実施者による自己評価
 二次評価：専門性を持つ者による第 3 者評価
 参加者に対するアンケート調査実施
 PDCA サイクルの活用